

ケニアの英語教科書に見る災害と防災の表現

森 康成

1. はじめに

ここ数年大きな災害が国内外で続いている。台風23号の被害、新潟中越地震、インド洋大津波、パキスタン地震、ジャワ島中部地震などである。また、阪神淡路大震災より10年以上が過ぎ、震災を風化させてはいけないという声も大きい。新聞やテレビのニュースでも災害や防災について報道されない日がないくらいである。

英語教育の分野では、日本の英語の教科書で災害を取り上げるものがあるが、海外の英語教科書では、災害をどのように捉えているのであろうか。ここでは、ケニアで使用されている英語教科書を取り上げて、そのあたりを探ってみたい。

世界の英語教科書にはアメリカやイギリスの生活を題材にして英語を学ぶように工夫しているもの、自国の生活を主に取り上げて自文化の教育もするという目的を持ったもの、その両方を取り上げるものに分類できるが、ケニアの英語教科書の特徴は、自文化を取り上げて教材としている点である。そういう点からすると、この英語の教科書を見ることで、ケニアの人々の災害や防災に対する考え方がわかると言える。

ケニアの災害について、日本人はどのような認識を持っているのか不明である。そこで、高校生はどのような認識をしているのか、想像でよいからと、生徒75名に尋ねてみた。(04年5月、インド洋大津波の起こる以前)多い順に、砂漠化15名、暴風・台風8名、地震6名、干ばつ6名、大雨4名、他で、答えられない生徒29名であった。

2. ケニアの災害

Primary English Pupil's Book for Standard SevenとStandard Eight(7年生と8年生)という教科書を取り上げて災害語彙を調べた。結果は、自然災害については、hailstorm(ひょうの嵐)、storm(暴

風)、flood(洪水)、heavy rain(大雨)、drought(干ばつ)、roaring wind(大風)、lightning and thunder(雷)、desert(砂漠)が用語として見られた。また、人為災害として、fire(火災)があげられている。こう見ると、ケニアの災害には、大雨による災害と乾燥による干ばつというふたつの相反した災害があることがわかる。

3. 暴風雨に関する表現

暴風雨についてはAfter the Storm (Standard Six)というひとつの課がある。

ケニアでは雨季の季節が9月に始まる。It was early September ... they are waiting anxiously for the rain to begin. 雨が来て人々は作物を植えるのを期待するのだが、大雨となり、雷が鳴り響く。First there were just a few drops, but the frightening storm began. A strong wind blew, the rain poured down, and trees and houses were shaken by thunder. ...The following morning there were pools of water everywhere. 翌朝学校へ行った子供たちは被害を受けた建物を見て驚く。The two Standard Six classrooms had been completely destroyed. All that remained of the building was a heap of mud, poles and torn roofing sheets. ケニアではトタン屋根の建物はよい方だが、それが飛んでしまっている。地域の人々や保護者がお金や資材を調達し、親や生徒の奉仕で教室が建てられる。このケニアでは助け合いの精神が生きている。

この文章から、the storm began「暴風が始まった」、the rain poured down「雨がざあざあ降った」、a strong wind blew「強風が吹いた」、the classrooms had been destroyed「教室が被害を受けた」などが参考になる。

4. 洪水と干ばつの表現

洪水と日照りの対策としてのダム造りについて Sonjo Dam (Standard Seven) という教材がある。生徒たちが災害について学習して、ダムを見に行くという設定である。We discussed the causes of droughts and floods and the effects they have on people. We learnt that in many areas, people are trying to protect themselves against these disasters by building dams across rivers and streams. 洪水の原因を話し合い、水不足や洪水から自分たちを守るために、川にダムを作ろうとする。There aren't many trees to stop wind erosion. 日本でもよく言われる、洪水の原因は木々の伐採と関係のあることを老人が子供たちに語る。People used to cut down trees for charcoal in those days. 日本の一昔前のように、ケニアでは薪のためにあちこちの木を切ってしまう。One day, dark clouds gathered in the sky and it rained heavily for several hours. What seemed a good thing at first, became a disaster. Some people lost their lives trying to save their possessions. 洪水で人々が亡くなったり多大な被害を受けてダムが造られたと、ダムの具体的な話に続いている。ケニアでの災害の原因の一端が教材化されている例である。

「日照りが人々に与える影響」という表現 the effects the droughts have on people などは主語を変えればほかの災害にも応用できる。it rained heavily は先にあげた the rain poured と共に一般的な表現である。protect themselves against these disasters も洪水に対する備えとか、台風に対する備えなどに応用できる。「命を失う」という Some people lost their lives ... などは阪神淡路大震災を表現するのにも応用できる。練習問題に What other kinds of disasters sometimes cause loss of life and damage to property? とあり、教師が生徒に質問する言い回しとして使える。

5. 雷雨に関する表現

ケニアでは雷雨もよくあるようで、ここにあげる教材のほか、別の教科書にも載っている。A Thunderstorm (Standard Five) という教材は次のようになっている。

学校帰りの2人の姉弟が天気急変で、姉が Let's hurry. There's going to be a storm. と言うが、弟は Let's shelter under these trees. と大きな木の下に隠れようとする。姉は It's very dangerous to shelter under trees in a storm. The lightning may hit a tree and kill us. と諭し2人とも急いで近くの廃屋に逃げ込む。They sat close each other in the middle of the floor. Cheruto knew that it was safer there than near the walls. 雷のときは部屋の真ん中にいるとよいというのは日本でもよく子供に話す内容である。光った後、姉は One, two, three, four. Crash! It's going away. と言う。弟が「雷が遠ざかっているのがどうしてわかるのか」と尋ねると、姉は When we see the lightning first, then hear the sound of the thunder. When the storm is one kilometer away, we hear the thunder about three seconds later. と説明している。科学的な説明がなされているとともに、次のような自分たちの文化の言い伝えも述べられていて興味深い。「雷は神様の妻が怒って夫になべなどを投げつけているのだ」という説明である。People used to say that thunder is the noise made by the gods when they are angry. The god's wife is throwing pots, kettles and cans at her husband. ライティングの授業で、日本ではこれこれだと日本の言い伝えを書くヒントになる。

ここでは shelter 「避難する」の使い方として Let's shelter under these trees. 「雷が落ちる」表現として The lightning may hit a tree. と hit という動詞を使う表現など応用できる。

6. 火災に関する表現

ケニアでも火事は大変なようで、Fighting Fire (Standard Seven) という教材では、人為災害としての街の中での建物の火災と森林火災が取り上げられている。

There have been several serious fires in shops and people's homes recently. と教師が述べる設定になっており、ケニアの都市部では建物火災が災害のひとつであることがわかる。Because of this, the fire brigade has decided to visit schools and villages in the area to tell people

about the causes of fires and how to prevent and fight them.と書いてあるのは、日本の防災訓練などと状況は似ている。A lot of fires are also caused by petrol. Petrol catches fire very easily and burns very fast. The charcoal can also set fire to the bedding. Electricity can also causes fires in the homes. ケニアでは石油、木炭、電気が火災の原因となっている。petrolでケニアはイギリス英語を使っていることがわかる。

これらを見ると、fireに関して、fires are caused by...という火事の原因を表す表現、petrol catches fire. というと「石油にはすぐ火がつく」、The charcoal can also set fire to...「炭火が何々に火をつける」という表現がわかるとともに、日本と違いケニアでは炭火を使っていることがわかる。また、森林火災も多いようで、Some are started by people who throw away cigarette ends or burning matches. Always make sure that you have put out the campfire properly before you leave the place.と先生が生徒に話す場面が設定されている。毎年起こるフランスの山火事ではポイ捨てタバコが話題になるが、日本を含め世界中でタバコの不始末などは問題であることがわかる。

火事の処理に関して、Can you tell us how to put out if they do start? ...Let me tell you what the fire brigade does if it is called to extinguish a fire. の会話がある。「消す」という put out と extinguish a fire が学習できる。For small fires, we use hand extinguishers instead of hoses. 「消火器」という用語も使われている。We should wrap a blanket around someone whose clothes are on fire. 毛布を応用して消火するなど、のさまざまな消火方法も紹介されている。この教材もほかの教材同様、啓蒙的な要素がある。

7. 防災，救助表現

防災，救助表現に使われる主な動詞として，save, rescue, evacuate, avoid があげられる。

They had to climb up trees and onto the roofs of their houses to save their lives. の例文に見られるように，save は「命を救う」だが，次のように自分の物を守るためにという表現もできる。Some people lost their lives trying to save their

possessions. 「救助する」という表現では，次のようにHow are they rescued? ...They worked day and night to evacuate us from the flooded area. という受け答えができる。What can be done to avoid future floods? という問いは，ここでは洪水に関するものだが，日本では，地震や津波という単語に言い換えて作文できるだろう。

8. まとめ

生徒の予想を最初にあげたが，干ばつと洪水は当たっていたように思う。とはいえ，大部分の生徒は答えることもできていなかった。

調査したケニアの教科書では，地震や津波は見られず，ケニアではこれらの災害はないか，まれなのだろうと推測される。

ケニアはよく日本の教科書でも取り上げられる国のひとつであるが，災害についてはあまり取り上げられていないのが実際である。ここで，自然災害や防災の表現と共にケニアの様子についても知っていただけたなら幸いである。

参考文献

Kenya Institute of Education. (1989). *PRIMARY ENGLISH Pupils' Book for Standard Seven*. Nairobi: Jomo Kenyatta Foundation, このシリーズの Standard Five ~ Eight を参考にした。英語部分は教科書を引用したものである。

(兵庫県立淡路高等学校教諭)